

さがえ屋通信

お客様とのご縁を紡ぐおせんべい

弥生
2023.3.1

煎餅工房さがえ屋
通販事業部
山形県寒河江市
中央工業団地1-6
TEL:0120-38-3324
FAX:0120-05-3324



さがえ屋通信
バックナンバー
はこちら

蔵王の樹氷



ネット店青柳のカメラ片手にご近所旅

(2023年2月5日 山形県 蔵王 樹氷原)

①



④



③



②

圧倒的な迫力 幻想的な世界

樹氷とは0度以下の水の粒が樹木にぶつかり、瞬間的に凍りつき、氷の層を作り出す現象のことです。この氷の層に雪が入り込むことで大きく成長します。そのさまはまさにスノーモンスター。極寒と強風で作られた造形は、自然の美しさと厳しさを私たちに見せつけてくれます。

蔵王連峰は針葉樹が育つ亜高山帯。地蔵岳付近には樹氷原と呼ばれるアオモリトドマツの群生地が広がります。濃い霧と雪、そして強い風が吹くことで樹氷が育ち、時折広がる晴れ間には広大で迫力ある樹氷群が私たちの目を奪います。蔵王は温泉とスキー、スノーボードのメッカ。樹氷に囲まれたコースをさっそうと滑るのは、とても気持ちよいものです。

①地蔵山頂駅展望台から望む樹氷群。②地蔵山頂駅外観。③ゴンドラと林間コース。④怪物が火をふいているよう。⑤風上から風下に向かって成長する樹氷。⑥高さ約2mの地蔵尊も雪の中。⑦眼下に広がる樹氷原。

まつ毛が凍る 寒さの中で

立春を迎え暦の上では春なのに、山形県ではまだまだ冬景色が広がっています。そんな中、山形県を代表する冬景色、今が見頃の蔵王の樹氷を自指しました。蔵王はとにかく寒い。普段の2倍の服を着込み、朝6時頃に家を出発。雪が千らつく最悪な状況の中、約1時間ほどロープウェイ駐車場に到着。朝一番のゴンドラに乗り込み地蔵山頂駅を目指します。約20分の行程。山頂駅に近づくほどに霧が濃くなり、視界は50m程。気温はマイナス10度、強風吹き荒れる世界。視界の悪さと刺すような寒さで恐怖すら感じる中、霧の中でうすらと光る太陽に照らされた樹氷は幻想的でもありました。さて最悪な状況の中、悪戦苦闘すること30分、徐々に霧が晴れ、眩しい太陽の光が辺りを照らし始めました。ついに姿を現した樹氷群。「凄く、凄く」感動の中、マスクから漏れる息で凍ったまつ毛を拭きながらファインダーを覗き、シャッターを切り続けました。



⑤



⑥



⑦

